

子どもたちに多様な人との出会いを ～榴岡小学校～

仙台市立榴岡小学校は、明治時代に創設された歴史のある学校です。仙台駅東に位置し、学区内には桜の名所である榴岡公園、お祭りや初詣の時期に賑わう榴岡天満宮があります。

仙台駅東の区画整理に伴って街の在り方が変容するなかでも、変わらず学校と地域との関わりが強く、多くの保護者や地域の方が、子どもたちを支援するサポーターとして活動しています。

今回取材したのは、学校支援地域本部のスーパーバイザー猪股さんと、読み聞かせサポーターさん5名です。この日は、榴岡小学校の5年生5クラスの児童に、サポーターさんがそれぞれ選んだ本を読みました。サポーターの皆さんは、声色や調子を変えながら臨場感たっぷりに読み聞かせをし、子どもたちは真剣に聞き入っていました。



サポーターの皆さんに、どのような思いで本を選んでいるのか聞いてみると、「他者を大事にできる人に育ってほしいという思いで選んでいる」、「色々な本があるよ、ということを紹介する気持ちで、子どもたちがまだ読んだことがないような本を選んでいる」、「その学年に合わせて、今の時期にはこういう本がいいかな、と想像しながら選んでいる」など、様々な思いを聞かせてくれました。



「疲れているときでも、子どもたちと会うと元気をもらえます」と話す猪股さん



活動が楽しくて、自分のお子さんが卒業した後もサポーターを続ける人も多いそう

猪股さんは、「サポーターによって読む本の特色に違いがあるので、読み聞かせのシフトを作るときには、日によって、別のサポーターが入るように心掛けています。子どもたちには、なるべく色々な本、色々な大人に出会ってほしいという思いからです。」と話します。

読み聞かせを受けた子どもたちからは、「自分では選ばない本を聞けるので毎回楽しい」、「普段読んでいる本以外にも、色々な本を読むことが大切だと思った」といった感想があり、猪股さんの願いどおり、読み聞かせによって、新たな学びの機会を得ていることがうかがえました。

このほか、子どもたちに地域との関わりについて聞いてみると、「地域の人たちのおかげで、楽しく安全に学校に通える」、「自分たちをたくさん支えてくれて、大切にしてくれていると感じる」など、地域のサポートに感謝し、地域の方々を大切な存在だと捉えていることも伝わってきました。

榴岡小学校では、読み聞かせのほかにも、子どもたちが地域の商店や施設で働く体験をする「弟子入り留学」をはじめ、各学年の活動に地域の方々が数多くサポートしています。

そのうちの一つである「放課後遊び」サポーターの活動では、月に1~2回、放課後に校庭で自由に遊ぶ子どもたちの見守りを行います。見守りが行き届くことによって、子どもたちは安全安心に遊ぶことができ、普段遊べないフラフープや竹馬、一輪車などに挑戦する貴重な機会にもなっています。



一輪車で遊ぶ子どもを見守る様子



「上手になったね」「その調子」などポジティブな声掛けも

学校で地域連携を担当する川口主幹教諭は、「放課後遊びサポーターをはじめ、地域の協力で様々な活動が成り立っています。子どもたちに多様な経験を提供することは、豊かな人間性を育むことにもつながります」と話します。

今回の取材を通して、地域との関わりによって、子どもたちが多様な大人や価値観に接し、様々な経験を積むことができるということ、そのことが子どもの健やかな心や社会性を育むことに大きく寄与しているということが分かりました。榴岡小学校と地域との協働は続いていきます。



読み聞かせサポーターの皆さんと
川口主幹教諭（右端）

※関連リンク：

榴岡小学校
ホームページ



榴岡小学校
学校支援地域本部
ホームページ

